

平成 27 年度 第 10 回 牧之原市自治基本条例推進会議

次 第

日時：平成 28 年 3 月 18 日（金）

午後 3 時 30 分から午後 5 時 30 分

会場：牧之原市役所 榛原庁舎 4 階会議室 1・2

1 開 会

2 会長挨拶

3 議 題

(1) 報告会で出された意見について

・資料 1、資料 2

(2) 答申案について

・資料 3

4 副会長挨拶

5 連絡事項

【次回の日程】

日時：平成 28 年 3 月 22 日（火）午前 9 時から午前 11 時

会場：市役所榛原庁舎 4 階会議室（会場変更）

【答申の日程】

日時：平成 28 年 3 月 30 日（水）午後 2 時から午後 3 時

会場：市役所榛原庁舎庁議室

6 閉 会

【資料】

資料 1：報告会で説明した施設分類別の方向性について

資料 2：報告会で出された意見について

資料 3：施設分類別の方向性及び先導的な施設の答申案



絆と元気の繋がる

幸せあふれみんなが繁う

NEXTまきのほら

報告会で説明した施設分類別の方向性について

分類	内容
庁舎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来は高台という対話の場の意見を尊重しつつ、当面は庁舎機能の部分的な統合を視野に、今ある施設を賢く使うことを考える。 ・ 図書館、史料館などの機能と併せて考える。 ・ 高齢者福祉施設あたりの移転後のさざんかの空きスペースの活用方法を明確にする。(健康福祉部を集約など) ・ 榛原庁舎、榛原文化センター会館棟の空きスペースの活用方法を検討する。 ・ 行政の仕事の効率化など面積を減らす工夫をする。 ・ 市民への直接的なサービスを維持(オンライン、民間と連携)
学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 15年後の方向性は、対話の場のおりとする。 (魅力ある教育環境の実現、小中連携教育、中学校単位で小学校をまとめる。) ・ 複式学級はつくらない。市の統合の基準を設ける。 ・ 生涯学習の拠点として、地域と複合的に利用する仕組みについて、地域が主体となって考える対話の場を設ける。(小学校施設) ・ プールは、民間施設や社会体育施設を活用する。
生涯学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 団体を一つにして、市民が主体的に運営する。 ・ 拠点(本スクール)を一つにする。 ・ 小学校施設を学校教育と生涯学習の拠点とする。 ・ 市の中心部にある空き施設、スペースを拠点として検討する。 ・ コミュニティセンターや公民館をまちづくりセンター(仮)として活用する。
文化財	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状ある3施設(史料館、民俗資料館、文化財調査事務所)を1つに統合する。 ・ 施設機能は、田沼意次の出身である旧相良城下に、史料保管(空調など)も考慮して検討する。 ・ 検討に当たっては、保管・保全だけでなく、情報発信などまちづくりへの活用が可能なプラスの機能を盛り込んだものとする。
図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流、学習スペースを確保する。 ・ 司書やボランティアの育成を進めながら、利用しやすい施設にする。 ・ 平成21年3月の図書館のあり方検討会の提言を尊重する。 <ul style="list-style-type: none"> ①独立した専門機関の図書館と専任職員の配置 ②学習・交流ができて、市民が自然に集う安らぎの図書館 ③移動図書館ひまわり号とサテライト図書館構築による市内各地の利便性向上 ④図書館と幼稚園・保育園・学校の連携 ⑤読書活動ボランティアの支援 ⑥市民による図書館サポート活動 ⑦図書館機能充実 実現のための協働推進 今後の展開 ・ 高校の図書館もネットワーク機能として位置付ける

報告会での出された意見について

1 報告会における参加者からの意見

質問者	質問内容
社会福祉協議会 水野会長	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の中に市営住宅の位置付けがないが、市営住宅はどのように進めていくのか ・老朽化が進んでおり、入居者も少ないが、入居者の多くは生活弱者という状況 ・建替えは困難と思うが、集約や空き家利用を考えていくのか ・高齢者福祉施設うたりについて、移転の検討を進めている。 ・民間福祉施設との競合の中で、経営面での心配もある。皆さんの意見をいただきながら進めていきたい。
商工会 本杉会長	<ul style="list-style-type: none"> ・報告の内容は、これまでの現状を把握し、目指す姿をつくってくれたものと思う。全部実施してほしい。 ・行政が右肩下がりの社会に対応していない。国の決定を右から左ではいけない。エラーをしない行政でなく、ホームランを打ってほしい。 ・行政の給与を削減し、子育てにまわしている事例もある。 ・庁舎統合についても数字を出してほしい。窓口も現在、庁舎毎で3人ずついるが、統合しても3人で出来ると思う。 ・削減した人件費を積算すれば、10年で10億円くらいの資金を確保できる。
萩間地区 森田地区長 (神寄区長)	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の説明では、私たちの切な願いがわがままで悪者のような形になってしまいそうで言いにくいが・・・ ・庁舎については、一つにしなければいけないと誰もが思っている。利用率などの数字から見る視点も必要なのではないか ・学校は、小中連携教育が叫ばれているが、効率化としてこの問題を扱うことに違和感がある。 ・まちづくりは、現行の小学校区で行い、小学校はまとめていくという発想も違うと思う。 ・小学校区による絆づくりで地域の絆も深まっている。 ・子どもを中心にすることで、男性も地域の中に入って行ける道筋ができる。そういう意味でも小学校区は大切と考える。 ・複式学級による負担も分かるが、地域の中での子どもとの繋がりが、地域と連携した教育が必要。 ・地域づくりと小学校の繋がりを考えると、ある程度無理してでも子どものため、小学校を残す方向性もあるのではないか

<p>牧之原市自治会 地区長 大石会長 (坂部区長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の方向性は、国の教育指針が小中一貫校であるなら当然 そういう方向性になっていくと思う。 ・平成 27 年の小学校児童数が 2,400 人。2 つに分けると 1,000 人規模のマンモス小学校がどんなものか想像すると恐ろしい。 ・それぞれの地区にはそれぞれの歴史がある。統合しても地域ご との学習の場は大切だと思う。 ・小さい地区には、小さいところなりの意義もある。マンモス校 にした場合は、スクールバスの予算などの資金が必要になって くる。15 年後と言いつているが、少しハードではないか。
<p>相良区 阿部区長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・庁舎問題について、部分的統合の中で、榛原庁舎の 6 階や文化 センターの話が出た。空いているから部分的統合という話が出 るといことは、そちらに何らかの形で持って行ってしまおうと いうことなのかと自分は捉えた。 ・そうだとすると相良がだんだん小さくなってしまふ。 考え方を換えれば、議会が 6 階に行けば相良庁舎の 4 階は空く。 ・効率は悪いかもしれないが、この問題は合併当初の基本がある ため、十分考慮してもらいたい。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館は、まとまり方が小さいように感じた。 ・県下一小さい図書館のため、お金はかかるかもしれないが、将 来の子ども、青年、年寄りも本を読めるようにしたい。 ・新しい庁舎の関係も絡んでくると思うが、土地探しから本当の 図書館機能の充実を考えてほしい。 ・子ども達に係る機能を持たせるような考え方も入れて欲しい。

2 質問への対応

(1) 市営住宅

- ・市営住宅については、防災関係の施設と合わせて対話の場で議論するテーマに含
まないこととした。
- ・現在、建設部建設管理課で公営住宅等長寿命化計画を策定している。その中で住
宅ストックのあり方についても見直しを進めている。
- ・自治基本条例推進会議の答申を受け、市が公共施設マネジメント計画を策定する
際に他の施設分類と合わせて方向性を記載する。

(2) その他の意見

- ・第 10 回自治基本条例推進会議の中で質問に対する考え方を整理する。
- ・必要に応じて答申の内容に反映する。

(案)

平成 28 年 3 月 30 日

牧之原市長 西原 茂樹 様

牧之原市自治基本条例推進会議
会長 坂本 光司

牧之原市公共施設マネジメント基本計画の策定に係る施設分類別の方向性
及び先導的な施設について (答申)

平成 27 年 7 月 7 日付け牧地創第 34 号により諮問を受けた「牧之原市公共施設マネジメント基本計画の策定に係る施設分類別の方向性及び先導的な施設」について、慎重に審議を重ねた結果、別添のとおり答申します。

(案)

**牧之原市公共施設マネジメント
施設分類別の方向性及び先導的な施設の答申**

牧之原市自治基本条例推進会議

坂本会長の想いを後書きとして記載する。

審議過程における基本的な考え方を下記のとおり付しますので、計画の策定や推進に当たり十分配慮されますよう要望します。

記

1 基本的な考え方

(1) 推進の視点と体制

公共施設の具体的な活用方法を検討するに当たっては、そのプロセスに多様な市民が主体的に関わることと、民間の視点やノウハウを導入することの両面を充実する必要がある。

また、新たな発想によって、まちの魅力が向上し、価値が創出するように進めるため、専門的な知識を持つ有識者と市民が交わる推進体制を整える必要がある。

(2) 庁舎の取扱い

公共施設マネジメントの本丸といえる項目であり、対話の場の意見の様に子や孫世代の将来を考えると、この問題への着手は、避けて通れないと考える。

過去の経緯から行政機能の集約を問題視するのではなく、公共施設を賢く活用してまちの魅力を高めるなど、未来志向の視点で積極的に取り組むべきと考える。

(3) 小学校施設の取扱い

片浜小学校は、学校施設の活用と地域づくりを合わせて考える先行モデルとなる。

学校施設は、公共施設全体の4割を占め、公共施設マネジメント全体に大きな影響を与えるため、地域との効果的な連携・協働モデルをつくる必要がある。

なお、小中連携教育のため、中学校単位で小学校をまとめるに当たっては、教育のあり方に係る十分な議論を行ったうえで、実施する必要があると考える。

(4) 最適化や再配置における原則

公共施設全般について、最適化や再配置の検討を行う際には、財政負担の軽減、平準化を図る観点から、複数の公共施設の一体的な整備を検討すべきと考える。

2 その他、自治基本条例推進会議の中で出された主な意見

(1) 合併自治体としての一体感の醸成

本市の公共施設は、旧町それぞれの仕組みによって利用されているものもあり、市としての一体感の醸成が円滑に進まない要因の一つとなっていると考えられる。

公共施設マネジメントが行政の仕組みや組織の再編とも密接な関係を持つ取組であることを認識し、市全体の利益や一体感を考慮した見直しを図ることが必要になる。

(2) 公共施設の維持管理から経営への発想の転換

公共施設は、市民が保有する貴重な資産であるため、単純な維持管理ではなく、経営する視点で最大限に活用することが必要になる。

民間の視点やノウハウを導入するなど、新たな発想で公共施設を活用して、まちの魅力の向上や新たな価値の創出に積極的に取り組んでいかなければならない。

(3) 公共施設の新設における原則

本市の財政状況は、人口減少、少子高齢化の進行に伴い、今後益々困難な局面を迎えることが予測され、子や孫世代にツケを残さない資産経営が必要になる。

そのため、原則として公共施設の新設は行わないこととし、今ある施設を賢く使うことで、必要な機能を確保することが重要である。

(4) 総合計画に位置付ける他の重点プロジェクトとの連携

公共施設マネジメントは、総合計画に位置付ける重点プロジェクトであり、施設という面から全てのプロジェクトに総合的、横断的に関わる特性を持つものである。

施設の面から他のプロジェクトの推進を支援するとともに、双方向の連携・協働体制を構築することでプロジェクトの推進力を更に高めることを望むものである。

(5) 関係する団体との連携

市内には、公共性を持つ民間団体等が所有する施設なども存在しているため、それらの団体とネットワークを構築し、効果的かつ効率的に市民満足度の向上に資する方法を検討する必要がある

(6) 施設の管理と適正な保全

進捗状況の管理と施設の適切な保全を図るため、資産の総量や利用状況などを把握する必要がある。

固定資産台帳などと連携して、定期的に状況を把握するとともに、長期的な視点で活用する施設については、施設の適切な保全による長寿命化を図る必要がある。

自治基本条例推進会議としては、これらの基本的な考え方などを踏まえて、次のとおりの計画案とすることを提案します。

○大切にす視点（基本理念）

計画を進めるための基本理念を以下のとおり整理し、対話による共感を通じて、この大切にす視点を基に公共施設マネジメントを進めます。

【視点1】 未来志向で考えよう！



1 20年後の将来に向けて、ワクワク感を持って進めよう

20年後の未来は、私たちが想像する以上に大きく変わっていると予測されます。既成概念にとらわれず、この変化に向けて、柔軟に発想や意識を転換します。

新しいことを積極的に取り入れ、デザイン性や使いやすさ、愛着をみんなで追求することで、魅力ある公共施設にします。

また、魅力ある将来の姿に向かうため、一時的な不便さにとらわれず、未来志向の価値観を大事にします。幸せは施設の数ではありません。

2 子や孫世代のため、覚悟とスピード感を持って進めよう

このまちの将来を担う子や孫世代の明るい未来のためには、今を生きる私たちが真剣に取り組まないとはいけません。

次世代に借金やツケを残さないため、状況の変化に合わせて考え、行動する勇気と覚悟をもってこの問題に臨みます。

この問題は、全国各地で起こっていることであり、時間が経つほど深刻化するため、スピード感を持って取り組みます。

3 優先度の高いことから積極的に取り組もう

未来志向で進める中でも、一步ずつ着実に前に進むことが必要です。そのためには、全ての分野を画一的に進めるのではなく、大切にす視点を基に重点的かつ具体的に手を付けなければなりません。

安心して子どもを産み育てる環境、災害時の対応などの防災、地域のコミュニティなどを通じた世代を超えた交流などを大切にすして取り組みます。

【視点2】 賢く使おう！



1 今あるものを活かそう

未来志向での考え方で進めるとともに、現実にある施設の新たな使い方や価値

を発見することで、施設を賢く、有益に活用します。

原則として新たな施設はつくらず、今ある施設を活かします。残すことができる施設は残して、現在の状況に合った使い方に賢く転換します。

日々の手入れなどの工夫をするとともに、利用する人達の主体性を大切にする
ことで施設への愛着を育み、大事に使うことで、できるだけ長持ちさせます。

2 新しい発想で有効活用しよう

公共施設の機能をその特性に合わせて、効果的に集約、複合化など行い、施設の機能を再配置します。

また、それに伴う施設の空きスペースを活用して、新たな利用需要に応えることで、施設の総量が減っても、充実度が高まるような楽しい使い方を考えます。

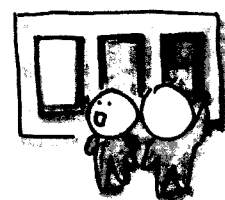
公共性を持つ民間施設などとの連携を深めるとともに、民間の方が施設の設置や運営に長けている分野の民営化を進めます。民間との連携や協力により、幅広く、質の高い公共サービスの提供に努めます。

3 無理・無駄を省いて効率よく使おう

利用効率が悪い施設などの状況を分析し、無理や無駄を省く使い方を考えます。また、耐震などの安全性が不十分な施設は、早期に改修または廃止を検討します。

利用率の低い施設は、施設の面積当たりのコストが割高になるなど、公平性が損なわれる恐れがあるため、他の用途への転換や複合化を進めます。また、夜間や休日の利用などのニーズを確認し、稼働率が高まる使い方に見直します。

【視点3】 共感を大事にしよう！



1 状況や考え方を知ろう、知ってもらおう、

公共施設の賢く、合理的な使い方を考えるためには、現状、設置の経緯及び目的などを共有することが必要です。施設の設置者は、知ってもらうための広報に努め、利用者もこれらの状況を知るように努めます。

また、施設の魅力や面白い使い方を発信することで市民の関心を高め、みんなに愛される利用率の高い施設を目指します。

2 意識や考え方を共有する対話の場を設けよう

施設に係る方針やデータを整理し、この問題に対する基本的な考え方をみんな
で共有します。

また、公共施設には、多くの人の様々な想いが込められています。数は少なく

ても、その施設に大切な想いを持つ人の意見にも耳を傾けるとともに、みんなで認め合い、支え合う相互扶助感を持って進めます。

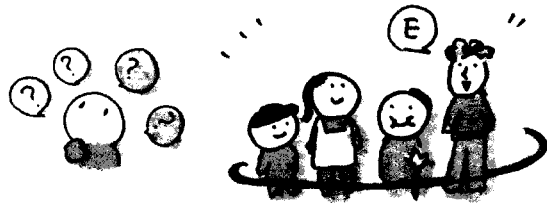
3 みんなの知識、やる気を引き出す進め方をしよう

みんなの想い、疑問、アイデアなどを共有する対話の場を設けることで、学び、気付き、共感を通じて、この問題への納得感が高まる進め方をします。

また、空き施設の活用などについては、行政、市民、その他の関係者の英知を結集してまちの賑わいを創出する視点で考えます。

この問題に関わる人達の知識、やる気が高まることで、その才能を広げ、市民力を進化させるような進め方をします。

【視点4】 みんなでやろう！



1 みんなで考えよう

この問題は、一人一人の生活に関わる重要な問題であるからこそ、みんなが自分事として考えることが必要です。多少の不具合や不便さを感じたり、一時的な不効率があつたりしたとしても、市民全体の利益を考えて、市民と行政が一緒になって、みんなで取り組んでいきます。

2 自分達でできることは自分達でやろう

誰かが解決してくれると考えるのではなく、小さなことでも自分達ができることを考え、自分達から直ぐに行動します。

施設を実際に使用している人が、その施設の事を一番身近に考え、愛着と親しみを持っています。施設を管理する行政、使用する市民という関係に固執することなく、利用と負担を一緒に考え、みんなで維持管理する体制を実現します。

多くの人が関わることで、使いやすい、愛着ある施設に育てていきます。

3 市民力を発揮しよう

設置者と使用者が対立するのではなく、対話を通じて効果的に連携し、役割分担して魅力ある施設づくりを目指します。

また、地区などの自治会を中心とした生活密着型の組織を核に、その活用方法を主体的に考えるとともに、多様な能力や価値観を持った人が市の内外から集まり、様々な立場や視点に配慮しつつ、その能力を最大限発揮することで、公共施設を活用した魅力あるまちづくりを進めます。

【視点5】まちづくりを考えよう！



1 牧之原市にあったまちの姿を目指そう

牧之原市は、温暖な気候、豊かな自然、多様な交通インフラの整備などにより、自然と調和した人やものの交流拠点として期待が高まっています。

牧之原市らしさを活かした魅力あるまちをつくるために、独自性のある公共施設の活用方法を考えることが重要です。

このまちに生まれ、育ち、暮らしている人達が更に住みやすく、このまちを訪れる人達が魅力を感じるまちづくりの視点で公共施設の問題を考えます。

2 みんなでまちのデザインを共有しよう

まちの将来のデザインをみんなで共有することは、このまちへの親しみや誇りを高める事にも繋がります。

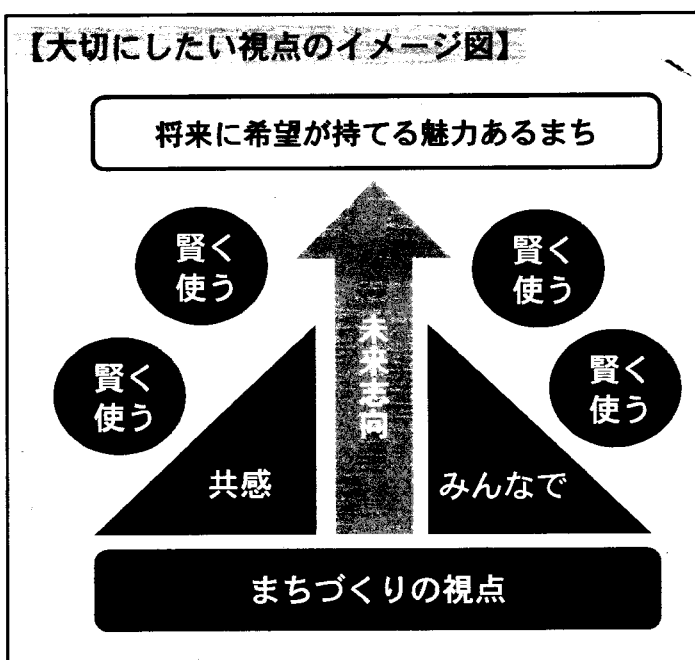
総合計画などの方向性と整合を図りながらも、まち全体や地区単位などの将来のデザインを対話によって共有し、その実現に向けて公共施設を活用します。

3 まちへのみんなの想いを大切にしよう

みんながこのまちに持っている想いや愛を大切にすることで、自分たちの取組がまちの将来に繋がっている実感を生むことが、周りの市町からも「おっ」と思われる取り組みに繋がります。

計画の実行性を高めるため、まちへのみんなの想いや愛を大切に公共施設マネジメントを進めます。

【大切にしたい視点のイメージ図】

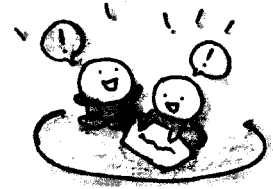


【イメージ図の説明】

まちづくりの視点を基礎に、未来志向の価値観を持ち、賢く使う方法で進めることを、共感やみんなで取り組むことが支える。

将来に希望が持てる魅力あるまちづくりを進め、住みたい・住み続けたいと思えるまちを実現する。

○施設分類別の方向性



公共施設マネジメント基本計画における施設分類別の方向性を以下のとおり整理します。下線部分は、先導的な施設（プロジェクト）の中で横断的に検討します。

なお、新たな利用方法の検討などに当たっては、有識者による検討を行うとともに、多様な関係者が意見を交わす対話の場を設けることを原則とします。

(1) 行政・文化施設グループ

■行政施設

- ・庁舎機能は、基本的に1つにまとめるが、窓口サービスの提供などに十分配慮した対応をとる。今ある施設を賢く使うことで、部分的にまとめることを進めます。
- ・部分的にまとめるに当たっては、総合健康福祉センター及び榛原文化センター会館棟の活用、図書館や芸術文化を活かしたまちづくりと合わせて検討します。
- ・また、オンラインによる手続や民間との連携により、これまで以上に窓口サービスの充実を図るよう対応します。提供などに十分配慮した対応をとります。
- ・高台を含めた庁舎の移転は、行政の仕事の効率化などを進め、執務面積を減らす工夫と合わせて、長期的なまちづくりの視点で検討を続けます。
- ・まとめ方は、現在ある施設を賢く使うことを原則とし、市民が使いやすい構造や機能を確保する。
- ・まとめる先は、安全性などを考慮するとともに、空き施設の活用を含めて検討する。

■文化施設

- ・史料館、民俗資料館、埋蔵文化財発掘事務所の機能を1つにまとめます。
- ・図書館は、今ある施設の空きスペースを活用して、地域の図書ネットワークの中核拠点となる機能を確保します。施設の規模を拡大する。
- ・文化ホールは、安全性を考慮して榛原文化センターのホール棟を取り壊します。い～らは、全市で活用できる使いやすい施設とするため、既存施設の賢い活かし方を検討します。
- ・芸術文化や図書館施設などは、庁舎などの他の公共施設と機能を複合化することを検討します。

(2) 学校・体育・子育て施設グループ

■学校施設

- ・小中連携教育を進め、魅力ある教育環境を実現するため、小中学校再編計画を策定し、15年後を目途に中学校単位で小学校をまとめます。
- ・市の統合の基準を設け、複式学級になることが見込まれる場合は、周辺校と統合します。

- ・ 小学校施設は、地区の生涯学習の拠点として、複合的な利用を検討します。
- ・ 学校の空き施設の活用については、まちづくりにおける複合利用の拠点とすることを全市的な視点で市民と一緒に考える。
- ・ プールは、民間施設や社会体育施設を活用します。

■ 体育施設

- ・ 学校施設の統合小中学校再編計画と合わせて、長期的な視点であり方を検討します。
- ・ 当面は、ぐりんぱる、相良総合グラウンド、静波グラウンド周辺を拠点として整備を進めます。
- ・ その他の体育館やテニスコートは、利用状況や他の施設の代替利用などを考慮したうえで、廃止や用途変更を検討します。
- ・ プールは、単独の設置では利用効率が悪いことが課題であるため、学校、公園、観光などとの包括的利用、民間施設との連携を基に廃止や見直しを進めます。

■ 子育て施設

- ・ 少子化や2歳以下の保育需要の増加などに合わせて、施設の配置を見直すとともに、認定こども園などの形態へ移行します。
- ・ 保育園、幼稚園は、民間による運営を基本として考えます。
- ・ 直営で運営している園は、指定管理制度の導入を進めるとともに、指定管理制度を導入している園は、園建設時の起債償還を目途に民営化への移行を進めます。
- ・ ~~民間法人と民営化に係る協議を進めます。~~
- ・ ~~各園の方向性は、上記の方針を基に、個別計画の中で具体的に定めます。~~

(3) ~~コミュニティ、公園施設グループ~~

■ コミュニティ施設

- ・ 現小学校区の10地区を単位として、まちづくりの視点で施設を活用します。
- ・ コミュニティセンターや公民館は、地区のまちづくりなどの拠点施設とします。
- ・ 拠点施設の老朽化などに対しては、学校の余裕教室空きスペースの複合的な利用などを含めた質の高い、賢い使い方を地区と一緒に考えます検討します。
- ・ 施設は、市が所管し、地区が運営することを基本とします。

■ 公園施設

- ・ 拠点となる公園は、地域、民間、NPOと連携して、その魅力を高めます。
- ・ 維持管理費及び管理方法を見直し、コストを低減します。
- ・ 地域が主体的に管理運営に関わることで、使いやすい、楽しい公園を実現します。
- ・ 公園の魅力を積極的に情報発信し、利用率を高めます。

(4) ~~保健福祉・観光産業施設グループ~~

■保健福祉施設

- ・高齢者のデイサービスセンターは、民間営施設の利用を基本とします。
- ・老人会館は、他の空き施設の利用により機能を移転し、施設は安全性を考慮して早期に取り壊します。廃止します。
- ・高齢者の介護予防に係る施設は、健康づくりや世代を超えた交流を進めるため、民間との連携を含めて施設の利用方法や配置を検討します。

■観光産業施設

- ・自然、歴史、食、スポーツなどをテーマに、魅力ある着地型観光を進める視点で施設の配置や活用方法を見直します。観光の魅力を高めます。
- ・民間との連携を基本として、賢く使うことを考えます。

○先導的な施設（プロジェクト）

施設分類別の方向性の中でもまちづくりの視点で横断的かつ重点的に取り組む施設であり、複合的に使うためのモデルとなる施設を、先導的な施設（プロジェクト）として位置付けます。

なお、この内容は、対話の場の意見、自治会組織や図書館などの提言、高齢者福祉施設うたりの移転や相良公民館、榛原文化センターホール棟の耐震性などの施設の状況、その他の関連する情報などを前提条件として、効果的に活用できると思われる施設を具体的に示したものです。

実現に当たっては、この内容を基礎として、より具体的かつ専門的な検討を進めることが必要と考えます。

庁舎施設の活用プロジェクト

1 主に総合的な行政機能をまとめる施設

(1) 方向性

- ・市政に係る円滑な連絡調整、スピード感のある方針決定、機動性の高い推進などを図るため、今ある施設を賢く使い、行政の機能を部分的にまとめます。
- ・主に総合的な行政機能をまとめる施設は、物理的な条件を考えて榛原庁舎を基礎とします。

(2) 機能のイメージ

- ・榛原庁舎だけでなく、総合健康福祉センターや榛原文化センター会館棟の空きスペース活用した効果的、効率的な配置を検討します。
- ・市政の推進等に係る機能はまとめますが、窓口サービスに係る機能は、オンラインの手続や民間との連携を含めて、全市的な充実を図ります。

2 市民サービスに係る行政機能に加えて、学び、ふれあい、交流に活用する施設

(1) 方向性

- ・行政機能を効率化することで生まれる庁舎の空きスペースを活用して、まちの賑わいを創出するための拠点をつくります。
- ・新たな人の流れをつくり、現状よりも周辺地域を活性化させる施設とします。
- ・地区が愛着を持てるコンセプトを盛り込むとともに、住民生活の拠点として、多くの人が交流する施設とします。
- ・図書館を拠点とした学習、交流や歴史文化を活かしたまちづくりなど、これまでスペースが確保できなかった課題を克服します。
- ・市民サービスに係る行政機能に加えて、学び、ふれあい、交流に活用する施設は、地域の歴史文化などを考慮し、相良庁舎を基礎として検討を進めます。

(2) 機能のイメージ

- ・民間と連携してカフェなどの過ごしやすい空間を備えます。
- ・郷土の偉人である田沼意次など、まちの歴史文化を発信するとともに、史料の収集、保存、展示の機能を確保します。
- ・交流、学習スペースを備えるとともに、ボランティア活動、司書による知のサポートなど、地域の図書機能のネットワークにおける中核機能を確保します。
- ・地区のコミュニティセンターや公的団体の事務所などの機能を複合化します。

片浜小学校施設の活用プロジェクト

1 地域創生、人づくりに活用する施設

(1) 方向性

- ・学校施設を活用して、地域創生、人づくりの全市的な拠点施設を設け、旧町単位で実施されてきた市民活動や文化活動の市単位の一体感を高め、市民間の交流を促進します。
- ・全市的な拠点施設は、立地環境などの地理的な条件、多様な機能を持つ施設の形態などを考慮し、片浜小学校を基礎として検討を進めます。

(2) 機能のイメージ

- ・小学校施設を活用し、今まで以上に人が集まることに取り組むためのモデル地区として、片浜地区の地域づくりに取り組みます。
- ・片浜小学校を拠点として、遠州田沼相良塾とはりはら塾を一つにし、市民が主体的に運営します。
- ・生涯学習活動の本スクールは、片浜小学校の多様な形態の教室や体育館などを活用して1箇所で開催されるようにします。
- ・本スクールと連携した移動スクールや地区別の活動を広く展開するため、コミュニティセンター、公民館、他の小学校施設の活用を検討します。
- ・青少年・高齢者などの交流拠点として活用することも合わせて検討します。

平成27年度 第10回 自治基本条例推進会議 議事録

日 時：平成28年3月18日（金）

午後3時30分～5時30分

会 場：榛原庁舎4階 会議室1・2

3 議 題

(1) 報告会で出された意見について

- ・資料1、2

(2) 答申案について

- ・資料3

～事務局による説明（資料1・2・3）～

三菱UFJリサーチ&コンサルティング 西尾室長：

- ・牧之原市の公共施設マネジメントの取り組みをする前に他の自治体で任期付の職員をしていたことがあり、そこでも公共施設マネジメントをやっていた。牧之原市のこの一年の取り組みは、過去の先進事例と比べてもとても画期的なものだった。
- ・通常の自治体は総論賛成各論反対で、全体として賛成してもらっても個々の身近な施設になると市民はみんな反対になってしまい、まとまらなくなってしまうところが多い。市民をばかにした話。市民を信頼して各論も含めて対話をし、方向性をつくっていくことが本来のあるべき姿。牧之原市では初めてそれをやった。
- ・理念については通常、行政でつくって市民の意見を聴くことが多いが、逆に市民の対話の場から出てきたものがそのまま基本理念として書かれているところが画期的。推進会議でも対話の場の意見を大切にしてもらい、ありがたく思っている。
- ・先導プロジェクトについて、実際に市でもすぐに取り組んで具体的な形をつくっていかなくてはならないものについて、対話の場でもいろいろな意見が出てきて、どこに終着させるかが大きな課題だったが、推進会議で一步踏み込んだ議論をしてもらい、かなり補強してもらった。対話の場での議論と推進会議での議論がかみ合った、良い答申が出来たと思う。

大石委員：

- ・3 ページ～11 ページまでをまとめるような見出しが3 ページ最初に欲しい。

会 長：

- ・2 ページ最初「その他、・・・」→削る？もう少し見やすく出来るのでは？

戸塚委員：

- ・「2 その他、自治基本条例推進会議の中で・・・」は取って、1 ページ(4)からの連番にしてはどうか？「合併自治体としての一体感の醸成」が(5)となる。

櫻井委員：

- ・1 ページ「1 基本的な考え方」、2 ページ「2 自治基本条例推進会議の中で出された主な意見」、3 ページ「理念」という見出しで良いのでは？

澤島委員：

- ・最初の2 ページまでが答申のかがみからつながっている説明文という感じ。3 ページ目からは別物な感じ。1、2 ページは推進会議から市長への答申、一般の人が公共施設マネジメントの経過について理解するには3 ページ目以降・・・としたらまとまりよくなるのでは？

小川委員：

- ・この答申は牧之原市長宛てに出す？会長としては、牧之原市民にもしっかり読んでもらいたいという期待を持っているのか？それによって違うと思う。

会 長：

- ・市長から諮問を受けたものなので市長に返すのは当然だが、市民の代表としてこの会議があるのも事実。離して考えることは出来ないと思う。答申を受けて、市側も言い回しなど考慮し、市から市民にもっと分かりやすい形を出してくれる機会もあると思う。

大石委員：

- ・1の基本的な考え方は推進会議としてのスタンス、2はその中での議論の経過、3 ページからは提案事項。
- ・大切にす視点(基本理念)と先導的な施設(プロジェクト)は大きな提案事項なので、もう少し分かりやすい(見やすい)見出し表示の工夫が必要なのでは？

永田委員：

- ・立場が3 ページ目から違う。3 ページ目に「次のような対話の場を設けることによってこういった議論をかわしてきました・・・」という一文があれば良い。

- ・7ページ目「これらを踏まえて方向性を次のように位置づけます・・」を付けては？
- ・施設分類別の方向性の前に先導的な施設を持ってきた方が良いのでは？

櫻井委員：

- ・2ページ最後の文「・・これらの基本的な考え方などを踏まえて、次のとおりの計画案とすることを提案します。」後に目次をつけたら分かりやすくなるのでは？(大切に視点を施設分類別の方向性・先導的な施設)

小川委員：

- ・題が「牧之原市公共施設マネジメント 施設分類別の方向性及び先導的な施設の答申」のため、結果から出すなら7ページから始めたほうが良いのでは。

会 長：

- ・今回の性格から言うと、なぜこういう答申をしたかに対する推進会議としての基本的な考えが最初にあると思う。今回の答申についてはみんなが喜ぶようなものではないし、まずは基本的な視点を言っておいたほうが説得力が出て良いのでは。

戸塚委員：

- ・全体的な流れとしては良いと思う。目次・見出しを工夫することによってかなり整理されてくるのでは。
- ・このプロジェクトが20年単位で進んでいるという期間的な流れが感じられない。どこか文章中に入れていけば良いが。何年かけてやるものなのか、見た人が分からないのでは？

～事務局による説明～

大石委員：

- ・3～6ページまでは、推進会議が主催して実施した対話の場において皆さんがいろいろな意見を出して合意をした内容。そこは推進会議ではいじっていない。今の部分は活かすとしても、そういう断りが欲しいかもしれない。対話の場において市民からこういう意見が出て、重要だから認識してほしい・・前につけるか後ろにつけるかは別扱い。我々の提案とそれを前提にしたうえでの提案が施設分類別の方向性。そこを提案して、なおかつ推進会議が実施してきた対話の場において、こういうことを市民が言っていたので大切にしてください・・と。それでも良いのでは？

専門監：

- ・基本的な考え方は合意された意見、主な意見は数人の方が強く言ったような意見という感覚で分けた。

- ・市としてもらいたいのは、分類別の方向性と先導的な施設。そこはちゃんと答申をしてもらい、あわせて対話の場に出た意見も推進会議で審議したうえでさらに付帯意見として添えて答申します・・というスタイルでどうかと考えていた。

山本副会長：

- ・3～6 ページを始めに持ってきて、それを最大限に尊重して1、2 ページの推進会議としての考えをまとめて、さらに7～9 ページの施設分類別の方向性、10、11 ページの先導的な施設・・という流れ+次第を入れることで分かりやすくなるのでは？
- ・これから市民に説明するにも5つの視点を常に上位に置いておかないと、各論がずれてしまう。

副市長：

- ・市としても推進会議からの答申を大切に公共施設マネジメント計画をまとめあげていきたいと考えている。公共施設マネジメントと言うと統廃合・老朽化というマイナスイメージが強くあったが、公共施設をいかしたまちづくりを進めていきたい。
- ・糸田まさしさん・・85歳。坂口谷川の堤防の草を刈り芝生化して、お彼岸にかかし祭りをやっている。この取り組みをしたことでゴミを捨てる人もいなくなったし、地域の絆づくりが出来たと話していた。100歳まで現役でこの取り組みを頑張ると話していた。まさに重点プロジェクトの一つ、いきいき健康活躍プロジェクトだと感じた。

戸塚委員：

- ・ビジョナリー経営を考えると、20年という一つの区切り、長丁場で必ず社会的・経済的な変化が起こるはず。そういう中で常にこの5つの考え方がぶれていては、経営としてまずいのでは。
- ・意見を出してもらったのは対話の場からだが、推進会議としてもエコーしている。我々がつくったとは言わないが、「市民の皆さんからもらった意見は極めて大事なポイントであり、これが理念です。」と堂々と言っても良いと思う。全体はビジョナリー経営。飾りのように置いておくのではなく、答申の基本理念として堂々と位置付けて、我々もいろいろな分野別・先導的なものについていろいろな議論をしてきたので、こういう区切りで分けられても良いと思う。

会 長：

- ・そうなら3～6 ページについては文章の修正が必要になる。

大石委員：

- ・対話の場の中でこういう意見が出され、こんなふうにとまとまったよ・・ということの良いのでは。

会 長：

- ・3～6 ページの文面はそのまま、前に1、2行で説明を加える・・・ということの良いか？

澤島委員：

- ・そのままの文章が良い。市民が自分たちの一致団結の意見として文章化されて「こうしていこう！」というものになっているものを推進会議としても認めた。この文章をいかすことで市民がまとまって取り組んでいこうという意思が出てくるように感じる。

戸塚委員：

- ・8 ページの子育て施設・・・指定管理制度→指定管理者制度では？
- ・10 ページの庁舎活用プロジェクト(1)・・・「スピード感のある方針決定、高い機動性の確保などを図るため」に修正したほうが良い。
- ・11 ページ(2) 機能のイメージの4つの順番・・・郷土の偉人が一番上、順に交流学习スペース、地区のコミュニティセンター、民間と連携して・・・にしてはどうか？

澤島委員：

- ・地頭方小の小学生・・・中学校から御前崎中(学校組合立)へ。西部管轄・中部管轄の区切りで警察・市役所・児童相談所も別になってしまう。福祉の問題や家庭環境も多様化している。福祉施設・サービスがうまくくっついていかないと。小中学校再編計画の中には学校組合のことも含めていってほしい。

戸塚委員：

- ・牧之原市単独で自立的に推進できる公共施設マネジメントと近隣市町との共同協議する必要がある公共施設マネジメントがある。学校施設にしぼると細かくなってしまうが、近隣市町との共同協議でやっていくものは、まとめて一つの項目として表現に入れても良いのでは？広域対応的な。

大石委員：

- ・今回は牧之原市のそれぞれの施設の話だが、広域で近隣市町と対応しているものもあって、市民にとっては重要なこと。諮問されたこととは違うかもしれないが、市民にとっては重要なことなので、そういうことが市民の意見だということを、対話の場の意見と同じようについばめながら検討するように牧之原市が近隣市町に働きかけてやってもらっているようなことをお願い出来れば良いと思う。そこが文言に入ると良い。趣旨が違ってしまふかもしれないが。

会 長：

- ・1～2 ページあたりに入れたらどうか。基本的な考え方に (5) で入れる？

大石委員：

- ・1 ページの基本的な考え方 (3) なお、小中連携教育のため・・・という文言。根本的な教育のあり方について議論する場が必要ということが加えられており、とても良いと思う。

会 長：

- ・2 ページ (3) について。「・・・原則として公共施設の新設は行わないこととし、・・・」→言い切りすぎでは？高台移転についても書かれているので、そことの整合性をとる必要がある。

戸塚委員：

- ・2 ページ (3) には「当面」という言葉を入れたらどうか。
- ・庁舎統合・学校統廃合の中で空きスペースはどう活用するのか、5つの重点プロジェクトとうまく連動して行動計画をシンクロさせるということを謳っておく必要があるのでは。基本的には集約した先の問題と出ていった後の問題が仕事として同時に進められることが大事。2 ページ (4) の中に半行でも良いので今言ったようなポイントが入らないか？

大石委員：

- ・7 ページの文化施設「芸術文化や図書館建設などは、・・・」→複合化はもちろん良いことだが、移せば良いという問題ではない。そこが高度に利用され、活用されるために市民力を上げるとか、そういった文言を入れたほうが良い。移したら終わり、ではない。

山本委員：

- ・空きスペースの活用について・・・斬新な活用をしているところがあるとテレビでも取り上げていた。富山では、ひかりファイバーを完備してIT企業を誘致しているところもある。
- ・牧之原市にはまだまだ隠れた財産がたくさんあると思う。どこかの真似をすることも良いが、建物(公共施設)をどうにかするというだけでなく、長期的な戦略をもってやっていくべき。建物が空いたから使えば良いという単純なことではない。人を増やす、子供を増やすことを考えると、目先のことだけではなく、牧之原市としてどうしたいか、どうするかをしっかりと見据えて空き施設の活用は考えたほうが良い。

会 長：

- ・どこの行政でも行革と言うとマイナスの行革ばかりで、何をケチるか、何を縮減するかを考えているが、人を増やすため、税金を増やすためのプラスの行革もある。空いたスペースについて高度なハイテク型の産業を企業化させる、誘致する・・・ということも匂わせるような答申にしても良いのでは？

戸塚委員：

- ・インキュベーションオフィス 近所にイギリス人が住んでいる。→本社はイギリスにある会社でプログラマーとして日本で仕事をしている。イギリスの会社の日本支社のような感じ？20年後には部屋を一つ借りて自分で企業をする人も増えてくる時代になるのでは？
- ・残り4つの重点プロジェクトが公共施設マネジメントをどう使っていくか。どういうふうに歩調を合わせていくか。まさにそこにかかっている。空いたから何かにつかってくれないか？ではなくて、使うから早く空けてほしい・・・ぐらいの切迫感をもった4年間の取り組みにしてもらいたい。